

**製品名: CD158e ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08225**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KIR3DL1
別名	KIR3DL1; CD158E; NKAT3; NKB1; Killer cell immunoglobulin-like receptor 3DL1; CD158 antigen-like family member E; HLA-BW4-specific inhibitory NK cell receptor; MHC class I NK cell receptor; Natural killer-associated transcript 3; NKAT-3; p70 natural killer cell receptor clones CL-2/CL-11; p70 NK receptor CL-2/CL-11; CD158e
遺伝子 ID	3811.0
SwissProt ID	P43629
免疫原	キラー細胞免疫グロブリン様受容体 3DL1 由来の合成ペプチド（アミノ酸範囲: 21-70）

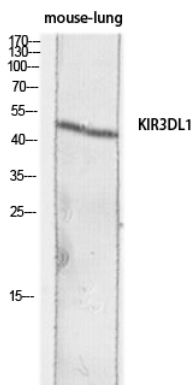
## 背景

キラー細胞免疫グロブリン様受容体、3つのIgドメインおよび長い細胞質テール1 (KIR3DL1) ホモサピエンス キラー細胞免疫グロブリン様受容体 (KIR) は、ナチュラルキラー細胞およびT細胞のサブセットによって発現される膜貫通糖タンパク質です。KIR 遺伝子は多型性があり、高い相同性を有し、1 Mb の白血球受容体複合体 (LRC) 内の染色体 19q13.4 上のクラスターとして存在します。KIR 遺伝子クラスターの遺伝子内容はハプロタイプによって異なりますが、いくつかの「フレームワーク」遺伝子はすべてのハプロタイプに存在します (KIR3DL3、KIR3DP1、KIR3DL4、KIR3DL2)。KIR タンパク質は、細胞外免疫グロブリンドメインの数 (2D または 3D) と、長い (L) 細胞質ドメインと短い (S) 細胞質ドメインの有無によって分類されます。長い細胞質ドメインを持つ KIR タンパク質は、免疫チロシン阻害モチーフ (ITIM) を介してリガンド結合時に阻害シグナルを伝達しますが、短い細胞質ドメインを持つ KIR タンパク質には機能がありません。機能:ナチュラルキラー (NK) 細胞上の HLA Bw4 アレルの受容体。NK 細胞の活動を阻害し、細胞溶解を防ぎます。多型:KIR 遺伝子は、白血球受容体複合体の 19q13.4 の DNA セグメントに位置しており、これはおそらく不等交差によって、時間の経過とともに拡大と縮小を経験しています。したがって、KIR ハプロタイプは遺伝子の数と種類が異なりますが、遺伝子 KIR3DL1 など、いくつかのフレームワーク遺伝子座は、すべてまたはほぼすべてのハプロタイプに存在します。KIR3DL1 と KIR3DS1 は、KIR3DL1/3DS1 遺伝子座の対立遺伝子として分離します。類似性:免疫グロブリンスーパーファミリーに属します。類似性:3つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインが含まれます。組織特異性:NK細胞株およびT細胞株では発現しますが、Bリンパ芽球細胞株や結腸癌細胞株では発現しません。

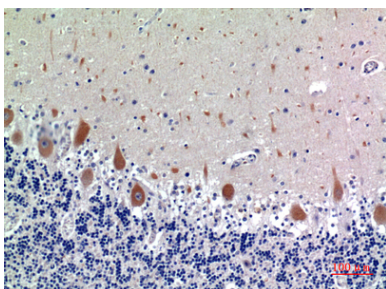
## 研究分野

抗原処理と提示、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害、移植片対宿主病、

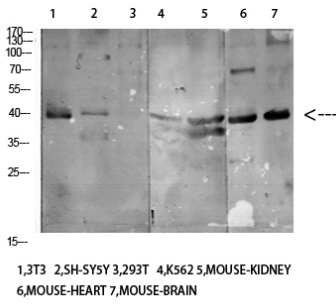
## 画像データ



KIR3DL1 抗体を用いたマウス肺溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



1:1000 に希釈した抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000 に希釈した。